問われる私たち大人の「生き方」

3面から続く

不思議ナケレド

――「開示悟入」を、例えば小学1年の「アサガオ」を用いた学びに応用すると、どうなるでしょうか。

あくまで一例ですが、まず「みんなはお花を育てたことはある？」といった問いから始まり、いろんな花の写真を見せたり、実際に種を触らせてみたりする。「育てる人が『きれいに咲いてね』と愛情込めて育てる場合と、そうでない場合とでは、育ち方に違いが現れるともいわれているんだよ」「自分のアサガオに名前を付けてみようか」等と呼びかけるのもいい。

大事なことは、一人一人が「これは自分が育てるアサガオなんだ」と感じられる手立てをとることです。これが「開」ですね。

次に「示」。具体的な世話の仕方などを教えます。世話の途中で、つるが伸びすぎて倒れそうになったり葉っぱに元気がなくなったり、さまざまな問題が起きてしまう。その問題点を児童たちで共有し、どう解決するかを考えさせる。「上級生に質問する仕組みを整えても、いかもしれません。こうして次第に一悟」へ進みます。この過程でアサガオの生命活動を見つめ、「生命とはどういうものか」を実感させることが大事なのです。その気持ちがあれば、教師の言葉がけも変わってくるでしょう。

北原白秋の詩に「薔薇ノ木ニ薔薇ノ花サク。ナニゴトノ不思議ナケレド」とあります。この「ナケレド」を子どもに実感させてあげられるかどうか。バラの木にバラの花が咲いても、何の不思議もない。けれど一当たり前でしょ」で片付けてしまったら、生命の実感は出てこないんです。

アサガオだって、あんな小さな種から、あんな素晴らしい花を咲かせる。自分で苦労してみてみると、「ナケレド」に気が付くわけです。そこから自分たちが今、存在している不思議さにまで思いが広がり、生命を慈しむ日常の行動にまでつながれば、まさに「入」といえるでしょうか。

関わりの時間

――アサガオを育てる意味が、人格の価値を創造するところまで高まる。まさに価値創造ですね。

これに通じる話が、サンテグジュペリの『星の王子さま』に出てきます。遠くの小さな星から王子さまが地球にやって来て、いろんな所に行っていろんなものと出会い、いろんなものを眺めて、いろんなことを考えるという物語ですね。

ある日、その王子さまは500本程の素晴らしいバラの花が咲く庭に着く。そこでふと、小さな星に残してきた、自分が世話をした貧弱なバラのことを思い出すんです。目の前にあるバラのほうが、ずっと美しい。けれど〝大切だな〟と思うのは、星に残してきたバラなんですね。

あのバラはワガママで、育てるのにはとても苦労した。けれど「関わりの時間」があったから、かけがえのない「自分だけの花」になった。これが生命の実感ということでしょう。

より良く生きる

――宝の生命を育むゆえに、教育は「人生最高至難の技術であり芸術」と牧口先生は宣言されています。創価の人間教育は戸田先生に受け継がれ、池田先生が生涯をかけて日本中・世界中へと広げました。

創価の師弟に貫かれた人間教育とは「生命の可能性を開花させる教育」と言えるでしょう。「第4期教育振興基本計画」で柱になった「ウェルビーイング」という概念も、「生命」という大きな視点から捉える必要があると私は考えます。

ウェルビーイングを「幸福」と訳す人もいますが、単に幸福を意味するなら、「ハピネス」でいいわけです。では何が違うのか。

幸福の条件として「身体的な健康」「精神的な満足」「社会的な豊かさ」は、確かに欠かせません。その上で〝人間としより良く生きる〟中で生まれる生命の充足感にこそ、ウェルビーイングの本質があるのです。「生きていることが楽しい」「生まれてきて良かった」という実感とも言えるでしょうか。牧口先生が90年以上も前に「子どもの幸福」のために「生命の価値を創造」しなければならないと訴えられたことは、まさに慧眼だったのです。

「生きていることが楽しい」といっても、「悩みや困難が何もない」ことではありません。悩みや困難さえも「生命を開花させる力」に変えていく――その創造的な生き方に、本当の幸福もあるのではないでしょうか。

ここからが勝負

――法華経従地涌出品に説かれる「地涌の菩薩」は、自ら願って宿業を背負って生まれ、この偉大さ・尊さ・素晴らしさを証明します。池田先生は、この地涌の菩薩のドラマを踏まえて、「宿命を使命に変える生き方」にこそ「生命の真の輝き」があると励ましてきました。

その通りです。生き方という視点でウェルビーイングを吟味すると、その対象は「子ども」に限りません。教師をはじめ全ての大人も含まれます。子どもたちのウェルビーイングのため、大人たちがどう生きるかが問われるわけです。

今、教員の「働き方改革」が話題になっていますが、それを単に労働時間や過重負担の問題だけに矮小化してはいけません。当然ながら、健康で安心して働ける労働環境の整備は絶対に必要です。その上で真の働き方改革には、「子どもたちにとって教師はどんな存在であるべきか」という問い直しが不可欠なのです。

私が、創価学会教育本部の皆さんこそ「教育界のキーパーソン（問題解決の鍵を握る人）」だと訴える理由も、「宿命を使命に変える生き方」「自他共の幸福に尽くす生き方」を土台としているからに、ほかなりません。皆さんにはその生き方を示してくれる「師匠」がいて、共に励まし合える「同志」もいます。「最高の宝」を持っているのだと、どうか自信を持っていただきたいのです。

池田先生は「社会のための教育」から「教育のための社会」への転換を提唱されました。それは「子どもの幸福のための社会」であり、「一人一人の生命を大切にする社会」「誰もが使命の花を咲かせられる社会」とも言えるでしょう。

そんな未来を開くため、創価の皆さんと一緒に――私も「ここからが勝負！」と決めています。

（6月11日付）

かじた・えいいち　1941年、島根県松江市生まれ。大阪大学教授、京都大学教授を経て、京都ノートルダム女子大学学長、兵庫教育大学学長、聖徳太平洋大学学長、奈良学園大学学長、桃山学院教育大学学長などを歴任。文学博士。日本語検定委員会理事長。2022年11月に「瑞宝重光章」を受章。著書は60点を超える。近著に『言葉の力を育てる』（金子書房）。

アサガオを教材にした「開示悟入」のイメージ

インタビューをもとに作成。左上が「開」で、子どもたちが興味・関心を持ち、「これは自分が育てるアサガオなんだ」と感じられる手立てをとる。右上が「示」で、具体的な世話の仕方などを教える。左下が「悟」で、子どもたちがさまざまな問題と向き合いながら、「生命とはどういうものか」を自分なりに考え、深め、納得していけるようにする。そして右下が「入」。〝自分だけのアサガオ〟を苦労して育て、生命の不思議さを実感した子どもたちは、ほかの生命にも温かなまなざしを向けられるようになる（イラスト・迎朝子）

識者が語る　未来を開く池田思想

本年の元日に起こった能登半島地震では多くの被害が発生しました。
実際の被災者の声をもとに、災害に対する備えを考えていきましょう。

被災者の声
非常食、避難所の食事に飽きてしまう。
長期間の避難生活で、缶詰や非常食など普段、食べていないものを食べ続けるのは、どうしても飽きがきて、食事の楽しみが失われます。ローリングストック法を活用して、普段から食べ慣れているものを備蓄しておくといいでしょう。

被災者の声
避難生活が長引いてストレスがたまる。
避難所では普段と違う生活を強いられ、プライバシーの確保も困難となります。また、避難者それぞれの状況も異なることから、被災者同士の話もしにくいという側面がありました。ストレスをなるべく抱え込まないための「心のケア」も必要です。

参考：東京都防災ホームページ／他

愛読者プレゼント
◆災害対策用備蓄品 しのげール（7,800円相当）［関美防災(株)提供］
◆環境配慮型カイロ エコポッカ［宝商(株)提供］
◆防災備蓄用寝袋 防災どこでもネブクロ［(株)とわ提供］
をセットにして抽選で10人にプレゼント
【WEBの場合】応募特設サイト（ad-oubo2@seikyo-np.jp）から投稿フォームに従って応募してください。スマートフォンで右の画像を読み取り、アクセスすることができます。
【ハガキの場合】郵便番号・住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記の上、下記の宛先まで。
宛先 〒160-8070　聖教新聞社「防災の日」広告係
※当選発表は発送をもって代えさせていただきます。※応募時の個人情報は賞品の発送の目的以外には使用しません。（応募フォーム）
※応募締め切り：2024年9月13日（金）当日消印有効。

能美防災株式会社
NOHMI 能美防災株式会社
災害対策用備蓄品セット『しのげール Ⅱ』
震災などの災害時に最低限必要な食料や水、簡易トイレなどをA4サイズのボックスにまとめたセット。個人のデスクや既存のキャビネットへスマートに収納できますので、災害発生時に配布する手間を省く事もできます。
食料は味の良いものをそろえ、避難時のストレス軽減に効果的です。
https://www.nohmi.co.jp/

TOKYO FM
Tokyofm Life time audio 80.0
TOKYO FMでは毎週土曜の朝、防災にまつわるトピックを放送中！
防災FRONT LINE
（毎週土曜朝 8時25分–8時30分）
いつ、どこで起こるかわからない自然災害。TOKYO FMでは、いざというときに役立つ様々な防災にまつわるトピックをお届けする番組。「防災FRONT LINE」を、毎週土曜の朝に放送中です。これまでにお伝えした防災トピックも、番組HPのアーカイブからお聴きいただけます。
TOKYO FMアナウンサー 手島千尋
https://www.tfm.co.jp/bousai/

宝商株式会社
THE HOSHO CORPORATION
宝商株式会社
“土に還せる”環境にやさしいカイロ『エコポッカ』で、防災対策も安心
エコポッカは寒い時期の通勤、通学、レジャー時の使用から、災害時用の非常持出しの備えとしてとても役立つ商品です。
災害は季節や天候、時間を問わず突然訪れます。
そんな災害時の不安を軽減するのに、防災用品の備えが必要となります。防災用としてエコポッカを備えておけば、災害時に喉をとることは勿論、ゴミを出したくない災害時でも、使用後の中身を土に還すことができるので力強い味方になってくれます。
TEL.03-3274-2435（営業第2部まで）
https://www.hosho.ne.jp/

KDDI株式会社
Tomorrow, Together
KDDI
災害などの非常時でもつながりやすい衛星携帯電話
イリジウム Extreme™は、耐久・耐水性（保護等級IP65）に優れ堅牢なため、ハードな環境でタフに使える、イリジウム衛星携帯電話です。
音声通話はもちろんのこと、ショートメッセージ、Eメール、GPS位置情報などもご利用いただけます。約247gと軽量・コンパクトで持ち運びやすく低軌道周回衛星だから「声の遅れ」が少なく一般の携帯電話と同じ感覚で会話することができます。
https://biz.kddi.com/service/satellite/iridium/

［順不同］